

ソーシャル付箋の提案

—感性を用いた読者間コミュニケーション支援システムの開発—

酒井 紗希

近年、インターネットの急速な発達にともない、本の感想を共有するサービス（以下、レビュー共有サービス）を介した本のレビューのやりとりが盛んに行われている。しかし、従来のレビュー共有サービスでは、「レビューを介した読者どうしのやりとりがほとんどなされていない」という問題がある。

本研究では、本のレビューを介した読者どうしのコミュニケーションを促進することを目的として、レビュー共有システム“ソーシャル付箋”を開発する。ソーシャル付箋は、本を読みながら、本文中のフレーズやページに「読者が抱いた印象」を付与し、レビューを書くシステムである。読者どうしの交流を促進するための機能として、「レビューを読者が抱いた印象（感性）で集約すること」と「レビューにコメントする際のインタフェースを工夫すること」の2つを備えている。1つめの機能「レビューの感性による集約」は、本に対して似た印象を持つ読者どうしの出会いを促進する。2つめの機能「コメント時のインタフェースの工夫」は、レビュー集約後の気になるレビューへのコメントを促進する。この2つの機能によって、従来サービスと比べてレビューを介した読者どうしのやりとりが促進されると考えられる。

レビューを読者が本に抱いた印象で集約するために、ブックログのレビュー 250 件を分析して「感性タグ」を定義した。また、他の読者のレビューにコメントを促すために、「気になるレビューに自分のレビューを近づけるとコメントできる機能」を実装した。

ソーシャル付箋と従来サービスとの定性的な比較を行った結果、レビューを介した読者どうしのコミュニケーションを促進するという点に関して本システムが有効であるということがわかった。具体的には、レビューを感性で集約することにより本の特定の箇所に対して似た感性を持つ読者どうしが出会い、レビューを近づけるという直感的な操作によって気になるレビューにコメントができることを確認した。

今後の予定としては、従来サービスのレビューデータを用いて定性的な実験を行い、本システムの有効性をより詳しく検証するつもりである。

（指導教員 関 洋平）